The Institute of Thanatology
死生学研究所

東洋英和女学院大学 2020年度〈公開〉連続講座

臨床死生学の意義

❑オンライン開催
お申し込みの方には事前に参加方法をメールにてご連絡いたします。

❑お申込み締め切り
2020年9月17日（木）17時

❑お申込み　死生学研究所 shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

❑先着　100名様

❑参加費　無料

第１回連続講座

9月 19日（土）
15:00-16:00

■プロフィール
横浜市立大学医学部卒業。研水会平塚病院副院長、国立横浜病院精神科医長、横浜市立大学医学部附属浦舟病院神経科講師、同部長、横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター精神医療センター部長を経て、平成14年より本学人間科学部教授。

■主要業績
主要著書に「精神保健医療福祉白書2019」（共著）中央法規出版、2018。「こころの医学」（共著）中央法規出版、2017。「うつに『ならない・負けない』生き方」（単著）サンマーク出版、2014。「『うつ』のすべてがわかる本」（単著）土屋書店、2013。「不安・うつは必ず治る」（単著）勉誠出版、2008。「現代精神医学事典」（共著）弘文堂、2011。「心理臨床学事典」（共著）丸善、2011。「現代倫理学事典」（共著）弘文堂、2006。「気分障害の診療学―治療初期から治療終結まで―」（共著）中山書店、2004。「パニック障害の基礎と臨床」（編著）金剛出版，2000。「AERA MOOK15　精神医学がわかる」（共著）朝日新聞社，1996。ほか

山田和夫（やまだ かずお）

本研究所所長
本学人間科学部教授

霜山徳爾とV.E.フランクルの奇跡の出会い―東洋英和女学院大学大学院死生学専攻と上智大学大学院死生学専攻との連携の背景

内容紹介：
V.E.フランクルの著書を『夜と霧』の邦題で世に紹介した霜山徳爾は上智大学の教授であり、また東洋英和女学院大学が開学した1989年、人間科学科心理学講座の教授を兼任されました。翌年には上智大学を退任、本学の専任教授となります。このため、本学と上智大学では、精神療法として実存分析の伝統があります。その後、本学には死生学研究所が、上智大学にはグリーフケア研究所が設立されました。本学にも上智大学と同様にスピリチュアルケアの伝統があります。このような背景を経て2020年4月より東洋英和女学院大学大学院死生学専攻と上智大学大学院死生学専攻は単位互換等の連携をする事になりました。

第2回連続講座

9月 19日（土）
16:00-17:00

■プロフィール
上智大学外国語学部フランス語学科卒業。同大大学院文学研究科教育学専攻博士課程前期修了。臨床心理士。東京都心理職（東京都多摩老人医療センター、東京都精神医学総合研究所、東京都老人医療センター）を経て、平成17年より現職。

■主要業績
著書（共著）に『糖尿病患者への心理学的アプローチ』学習研究社、1999。『先端医療とリエゾン精神医学』金原出版、1999。『ニューロサイコアナリシスへの招待』誠信書房、2015。主要論文に "Exploring the sandplayer's brain: A single case study"（箱庭療法学研究 30（3））。「V.E. フランクル 『夜と霧』再訪：運命の生き方」（人文・社会学論集 30）。ほか

秋本倫子（あきもと みちこ）本学人間科学部准教授

限界状況における人間
―フランクル「夜と霧」を出発点として

内容紹介：
新型コロナウィルス拡大により、今日、人類は未曾有の危機に直面しています。精神科医V.S.フランクルによる『夜と霧』は、自身のナチス・ドイツ強制収容所での体験の記録です。同書には、限界状況にあっても、人生には意味があり、人には人生に答える責任がある、との明確な主張があります。私たちは、今また本書から、そしてフランクルの思想から、何を学べるでしょうか。講演では、『夜と霧』を出発点として、フランクルの他の著書、そして『夜と霧』の翻訳者である霜山徳爾本学元教授の思想などを辿り、今日の危機状況を生きるヒントをご一緒に模索したいと思います。

〈予告〉 第3回〈公開〉連続講座　9月26日（土）16：20～17：50　❑オンライン開催
大林雅之（本学特任教授）「小さな死」における「私」―「赦し」と「孤独」をめぐって―